

使わない手はない！「お試し居住」。

実際に生活してみて発見する地域の魅力



「ひょうご北摂地域」での生活を体験してもらおうと、兵庫県阪神北県民局が用意した「お試し居住」というサービスがある。兵庫県外の居住者で兵庫県内への住み替えを検討中の方なら誰でも、三田市の県営住宅の1室を最長2週間まで利用できる。部屋は3LDKで、生活に必要な備品も揃っており、生活しながら街の様子を肌で感じ、周辺施設に行ってみるなど、まさに「お試し」できる。この事業で住戸の管理や利用者対応を担当している、株式会社コタニ住研のホームアドバイザー吉崎祐介さんと、株式会社コタニ住研の代表取締役で、兵庫県宅地建物取引業協会三田・丹波支部 副支部長の小谷俊仁さんに、このサービスの評判や三田市の住宅事情などを伺った。

お試し居住で、好印象の三田市

「利用者の年齢層は広く、若い方から年配の方までさまざまです。単身の方もいます」さらに、過ごし方もまちまちだという。ここを拠点として、自分の足でひょうご北摂地域を見て回る人や、利用者の要望に合わせて各施設を案内していただける見学ツアーに参加する人もいる。「農業体験ツアー」や「散策ツアー」のようなものだ。地元の学校の見学をされるという人もいて、それぞれ便利にされているようだ。



三田市の評判は上々だ。「思ったより便利」「自然が近く、少し足を延ばせば田舎も味わえる」「街が静か」「治安が良さそう」など、利用者へのアンケートも 8 割は好印象だという。

マイナス点は「バスの本数が少ない」ということくらいだろうか。確かに、三田市は車社会。バスの本数は減っているが、その反面、道路が広く渋滞も少ないので、多少運転に自信のない人でもストレスなく走れる。運転に慣れれば活動範囲も広がるだろう。



三田市の課題

「確かに三田市は人気ですが、駅からの徒歩圏内など好条件の場所に需要が集中し、土地の値段は上がっています。その一方でアクセスの良くない地域はどんどん価格が下がっています。子どもたちが成長して出て行ったあと、高齢者夫婦で田舎の大きい家を管理するようなケースが増えていますが、大変なのです」

空き家相談員も兼ねている、小谷さんは、三田市が抱える住宅の問題点も教えてくれた。



「この先、人口が減るので絶対家は余るのです」

新しい宅地開発はせず、増えてくる空き家をうまく活用して、地域の活性化につなげる必要があるという。そのための地道な活動は始まっている。

今年小谷さんたちは、若者の流出を食い止めたい三田市の「若者のまちづくり課」と共同で国土交通省の助成金を得た。それを使い、空き家対策についてのセミナーを開催するそうだ。そのほか、三田市の各地域にある地域福祉支援室の協力を得て、細かく空き家についてお話をさせてもらっている。高齢者の中には、すでに問題意識を持った人もいて、概ね好評だという。

三田市が、全国の先陣を切って空き家問題の解決に向けて成果をあげてくれることを願う。多くの人に好印象のまちを作ることに成功した三田市ならばきっと可能なはずだ。



三田市のいいところ、お試し居住で発見してください

魅力的なまち三田市。小谷さんにおすすめポイントを聞いた。

「皆さんの感想を聞いても、空気が美味しい、食べ物が美味しい、人が優しい、などいいところづくめの三田市です。せっかく『お試し居住』のサービスもあるので、お気軽に来てみてください。いつでも相談にのりますよ」



お試し居住で、今の三田市の住み心地を体験し、そして将来の三田市に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

キャプション

<IMG_0001>

株式会社コタニ住研のホームアドバイザー吉崎祐介さん

<IMG_0002>

ナチュラルな木がふんだんに使われた株式会社コタニ住研の事務所

<IMG_0003>

株式会社コタニ住研代表取締役の小谷俊仁さん。空き家の問題について詳しく教えてくれた

<IMG_0004>

株式会社コタニ住研は、SDGsに取り組む会社です

<IMG_1530>

小谷社長。三田市の空き家対策、期待しています！

<IMG_0005>

小谷社長

<IMG_0006>

ホームアドバイザーの吉崎さん

<IMG_0007>

これからも地域と共に歩んでいきます